

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 8 月 6 日現在

機関番号：32418

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25670249

研究課題名(和文)震災時および被災後の医療システムの再構築－復興プロセス

研究課題名(英文)Medical support system for the disaster restoration

研究代表者

五十子 敬子 (IRAKO, KEIKO)

尚美学園大学・総合政策学部・教授

研究者番号：50327136

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2年間の研究期間において原則2ヶ月に一度研究会を開催して行われた。各メンバーの専門性に配慮して4つのサブテーマに分類し、各々の研究結果を持ち寄り議論を重ねた。必要に応じ外部講師を招いて討論し、全体の整合性を確認した。

2014年11月30日には、研究メンバー4人による研究報告のシンポジウム「大災害時およびその後の医療システム再構築」を第20回日本臨床死生学会大会で開催した。その報告は『臨床死生学』第20巻に掲載されることになっている。研究代表者五十子は第6回関西法政治研究会で「災害救助初動期の医療活動とトリアージ」を報告した。その報告も『法政治研究』第2号に掲載される予定である。

研究成果の概要(英文)： We experienced 311 Great East Japan Earthquake. At the chaotic area, a small number of medical professionals took care of a lot of victims. Powerful earthquakes are predicted to hit Tokyo and/or other areas.

We, the study group on “Medical support system for the disaster restoration”, studied not only a feasible system but also pros and cons of triage, because once a victim is labeled “black”, he/she should give up chance to receive medical treatment. We had a symposium titled, “Righteousness of Triage from the points of view of the Redistribution of Medical Resource, Labor law and Bioethics”, at the 20th Conference of Japanese Society of Clinical Thanatology, December 2014. Our papers will be published in the THANATOLOGY, Vol.20. In March 2015, I presented a research on “Rescue Operations and Triage soon after Great Disaster” at the 6th Conference of the Kansai Law and Politics Association. It will also be published in the LAW AND POLITICS REVIEW No.2.

研究分野：医歯薬学

キーワード：大災害 救助活動 医療システム トリアージ 医療マネジメント 医療資源 労働法 生命倫理

1. 研究開始当初の背景

2011年8月、研究代表者五十子は宮城県を訪ねた。海岸に近い石巻市立病院は被災し、被害を逃れた老人施設に仮設診療所を開設していた。一方、石巻赤十字病院は津波の被害は殆どなく医療活動を行っていた。被災を逃れた商業施設の中におかれていた仮設市役所を訪ね、石巻病院局長はじめ、医療システム復旧に携わる方々にお目にかかり、お話を伺う事ができた。石巻市にある86医療施設の殆どは被災し機能停止に陥り診療継続が可能なのはわずか5施設であった。今回の大災害は津波の被害が多かったため、不幸にも亡くなった方がおよそ18,000人に上ったが、本来的な意味のトリアージによる選別ということは、殆ど行われなかった。

2年後の2013年度の科学研究費の助成を受け、救急医、労働法、マネジメントそして医事法・生命倫理分野の実務家および研究者が本テーマ：「大災害初動期およびその後の医療体制の再構築」についての共同研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究班の研究目的は、大災害に襲われ、社会インフラの総てを失った地域の医療体制の迅速かつ効果的な再構築の方法を提言することにある。

トリアージは、1995年の阪神大震災以後、厚労省の災害医療体制のあり方検討会で導入が検討され、2005年、福地山線脱線事故の際に実施された。先行研究ではトリアージについて次の2点が問題点として指摘された。

- ・黒タグの意義に関する認識の不足
 - ・黒タグを使用する医療者の心的負担
- 災害初動期の医療体制野研究にはトリアージについても検討する事とした。

3. 研究の方法

4つのサブテーマに分類し、原則2ヶ月に1度、夫々の研究テーマに関する研究結果を報告し、議論を重ねた。必要に応じて外部講師を招いて討論を重ね、全体の整合性を確認した。

法律関係の村岡(神尾)と五十子は分野は異なるものの、法律という視点を持ち、3回にわたり宮城、岩手を訪ねた。2年の間に被災地を3回訪ね、関係者から意見を拝受した。

本研究会のためにご足労頂き、またはお目にかからせて頂き、ご意見を頂戴した方々は、下記の通りである。ここに改めて深甚なる謝の意を表したい。

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 伊勢秀雄 | 石巻市病院局長兼
石巻市立病院院長 |
| 大久保久美子 | 宮城県保健福祉部医療整備課医療政策専門監 |
| | ほか医療整備課職員2名 |
| 小倉健一郎 | 元石巻市雄勝診療所長 |
| 奥山眞紀子 | 国立成育医療研究センター
副院長・こころの診療部部長 |
| 有賀 徹 | 昭和大学病院長・同医学部
救急医学講座教授 |
| 富田博樹 | 日本赤十字社事業局長 |
| 西島秀一 | 日本赤十字社事業局救護・
福祉部長 |
| 橋爪慶人 | 医療法人徳洲会東大阪
徳洲会病院院長 TMAT(NPO)理事 |
| 尾立貴志 | 森山リハビリテーションク
リニック院長 |
| 山本 健 | 岩手県立大学総合政策学部
准教授 |
| 十良澤福志 | 岩手県保健福祉部
医療政策室主任主査 |
| 小原亜希子 | 岩手県保健福祉部医療政策
室地域医療推進担当主任 |
| 川上幹夫 | 岩手県立釜石病院院長 |
| その他 | 通信事業関係者2名等 |

4. 研究成果

(1) 2014年11月30日、第20回日本臨床死生学会大会において4分野からなるシンポジウム「大災害時及びその後の医療システムに関する提言」を開催した。報告順に記す。

司会：有賀 徹（昭和大学病院長）

マネジメント視座からの提言（マクロレベル）：トリアージの概念を取り入れた医療資源の再配分 伊藤友弥

（医師・前東京都立

小児総合医療センター救急救命科）

労働法の側面：災害医療に従事する労働者の労働問題-労働基準法33条は大規模災害に対応できるのか- 神尾真知子

（日本大学教授）

医事法・生命倫理的視点：大災害初動期およびその後の医療システムの再構築

五十子敬子

（尚美学園大学教授）

マネジメント視座からの提言（ミクロレベル）：トリアージは「正義」か？

矢作恒雄

（作新学院大学副学長）

(2) 2015/06/26年3月28日、第6回関西法政治研究会において研究代表者五十子が「災害救助初動期の医療活動とトリアージ」を報告した。

災害救助に関わる法律には、次の二つの法律が制定されている。一つは災害救助法で、災害に際して、国が地方公共団体、日本赤十字社その他の団体及び国民の協力の下に、応急的に、必要な救助を行い、被災者の保護と社会の秩序の保全を図ることを目的としている。他の一つは日本赤十字社法で、非常災害時には傷病その他の災厄を受けた者の救護を行う（第27条2項）。

現在、地域の医療 ICT 連携は、徐々に進められているが、そのような地域の医療情報を

日本赤十字社の各支部長（都道府県知事の兼任）のもとに集約し、それを全国6ブロックが共有する。そして、それぞれのブロックからの情報を日本赤十字社本社に集約すれば、全国の災害医療システムは構築される。

現在、衆議院は通過したが年金機構の個人情報漏洩の影響で参議院での審議が延期されているマイナンバー制も個人情報の漏洩等、解決しなければならない問題はあつたものの、災害時には災害医療にも活用されう。

本研究は2015年3月末日をもって終了した。しかし、日本臨床死生学会大会主催シンポジウムでの多くの参加者との討論、並びに関西法政治研究会での報告のさいの活発な質問及び議論に勇気づけられ、本研究チームを存続させたまま本研究を続けることとし、今後の研究方向を決める為の文献研究に入った。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計2件)

五十子敬子、矢作恒雄、村岡(神尾)真知子、伊藤友弥「災害時及びその後の医療システムに関する提言」『臨床死生学』第20巻(印刷中)

五十子敬子「災害救助初動期の医療活動とトリアージ」『関西法政治研究』第2号(印刷中)

〔学会発表〕(計2件)

五十子敬子、矢作恒雄、村岡(神尾)真知子、伊藤友弥 第20回日本臨床死生学会大会シンポジウム「大災害時及びその後の医療システムに関する提言-医療資源の再配分・労働法・生命倫理・黒ラベル決定は正義か-」

五十子敬子 第6回関西法政治研究会報告「災害救助初動期の医療活動とトリアージ」

〔図書〕(計 0件)
〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

五十子 敬子 (IRAKO KEIKO)
尚美学園大学・大学院総合政策研究科・
教授
研究者番号：50327136

(2)研究分担者

矢作 恒雄 (YAHAGI TUNEO)
作新学院大学・大学院
副学長・教授
研究者番号：50158044

村岡(神尾)真知子
(MURAOKA [KAMIO] NACHIKO)
日本大学・大学院
法学部法学研究科(教授)
研究者番号：80219881

伊藤 友弥 東京都立小児総合医療セン
ター 臨床研究部医師 (その他)
研究者番号：30626651

(3)連携研究者

(0)

研究者番号：